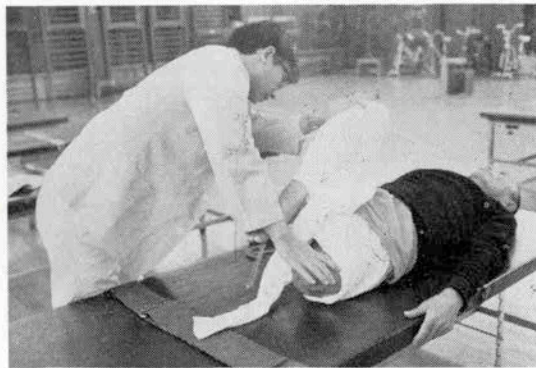


★神戸を福祉の町に〈14〉

# 急がれる専門技術者養成と待遇改善



▲身体の機能回復訓練をする理学療法士



▲軽い手作業を通して機能の回復をはかる作業療法士

(写真は兵庫県立リハビリテーションセンターで)

「リハビリテーション」という言葉が最近よく聞かれるようになってきた。「社会復帰」という意味に使われており、交通事故や労働災害、あるいは脳卒中などいろいろな病気や事故で身体が以前のように思うように動けなくなった時、いろいろな訓練をしてもとの家庭や職場へ復帰できるようにすること、といった方がいいが、もう少し広く考えて、障害をもつ人が、障害をできるだけ取り除いたり、軽減したりして、残された能力のゆるす限り人間らしい幸福な生活を営むことといってもいい。日常生活のうち自分でできる部分がこれまでより少しふえることだけでもそれはリハビリテーションと考えられるので、かならずしも職場や社会へ復帰できない重度障害者や老人の場合でもリハビリテーションは適用できる。

さて、一口にリハビリテーションといっても、医学的・職業的・社会的リハビリテーションなど、各分野で総合的に行なわれることが必要なのだが、リハビリテーションがよく「第三の医学」といわれているように、ここではまず身体の機能回復訓練にポイントをおいて考えてみたい。たとえば、病気や事故などで病院に入院し、治療を受けても、もとの身体の機能のある部分が失われてしまっていて、そのままでは日常生活を営むのが非常に困難になる場合がある。そういう時は失われた機能を補うために補装具をつけたり、残された機能を最大限に生かすためにいろいろな訓練をする必要がある。医者と共に専門の技術を用いてこの機能回復のための訓練をする人たちのことをセラピスト、すなわち訓練士とか療法士とかよんでいるが、この療法士にもいくつかの種類がある。Physical therapist（理学療法士、略してPT）、Occupational therapist（作業療法士、略してOT）、Speech therapist（言語療法士、略してST）などがある。主なものが他にもボケーションナル・セラピスト、レクレーションナル・セラピスト、ミュージック・セラピスト、サイコセラピスト、スポーツセラピストなど、最近新しい分野のセラピストが次々に生まれつつある。

専門家以外にはあまり耳なれない言葉だが、リハビリテーションにとっては欠かすことのできないこうした療法士たちは、ニードが高まっているにもかかわらず非常に数少ないのが現状だ。垂水区玉津町にある「兵庫県立リハビリテーションセンター」を訪れ、三橋保雄（PT）山下隆昭（PT）、大喜多 潤（OT）、増原純子（ST）さんのみなさんから現場の声を聞いてみた。

このリハビリテーションセンターではPT 11人、OT 4人、ST 2人が毎日多くの患者さんたちの治療・訓練を受けもっているが、全国的にみるとまだまだこうした専門療法士たちの数は驚くほどに少ない。

リハビリテーションが重要視されるようになり、理学療法士及び作業療法士の身分資格に関する法律」ができたのは今から10年前の昭和40年のこと。そしてこうした専門の技術者を養成するリハビリテーション学院が初めてできたのが昭和38年で、現在PTの養成校が全国に11カ所、OTが5カ所、STにいたっては東京に1カ所あるのみだ。しかもこうした養成校は1校で定員20名という少数なので、卒業後国家試験を受けて合格し、専門技術者として社会で活躍する人は毎年二百人にも満たない。

経験者で特例試験を受けて合格した人の数を合わせても、昭和41年から48年までの専門技術者の数は日本全国でPTが一五一四人、OTが四三〇人、STにいたっては昭和46年4月に東京都新宿区に定員20人で開校したばかりなので卒業生はまだ60人。

こうした専門技術者の需要は年々高まる一方だが、資格をもった専門家の養成は遅々としてなかなか進まない三年前、兵庫県にも養成校を設置しようという動きがあり、建物はできていたが結局計画倒れになったことがあった。その原因は、療法士を教育する教師がいなかったことと、教育システムが全然できていなかったことによる。ただ単にインスタントに数を増やせばいいという考えが先行した結果、実がともなわずつぶれたようであるが、これは現在の日本の療養士養成の多くの問題を端的

に示しているといつてよい。

現在の日本の療法士養成校のほとんどは三年制の教育システムをとっており、各種学校と同じ扱いなので卒業しても短大卒業一年の資格しか与えられない。

したがって専門技術者といつても待遇面では低い地位にあり、また仕事の面でも医者の下にあつて医者の指示に従って動かなければならないため、専門性を生かしていい不満もある。「生徒の資質や意欲は年々低下しているし、単に頭数だけ増やせばいいというもんじゃないですよ。それがサービスを受ける患者さんにもひびいてきますからね。養成校をつくるよりも、四年生の総合大学の中に早く専門コースをつくることです。それと教える人をつくることです」（大喜多さん）

「カナダは三年制がダメだということに気づいて総合大学に移行したい例です。アメリカも当然四年生の大学の中にコースを設けているんです。アジアの中でもフィリピンは国立の四年制大学でやっていますし、インドだって療養士に学士号を与えているんですよ。日本はアジアの中でも遅れてますよ」（山下さん）

「技術者は人の命を預かるんですからしっかりした人をつくると同時に、それなりの待遇を」（三橋さん）

日本では理学療法士や作業療法士といつてもまだその仕事がよく理解されておらず、マッサージ師の延長としか考えられていないのが現状かもしれない。おそらくこれから治療医学が進歩し、老人人口が増え、成人病や障害者が増加し、人権尊重、福祉思想が広まるにつれ、リハビリテーションの必要性はますます高まってくるにちがいない。そうした場合、こうした専門技術者なくしてはリハビリテーションは成り立ち得ない。

建物はできて人も人はそう早くにはつけれない。長い眼で本腰を入れて養成と待遇を考えていかなければ困ることになるのは目にみえている。福祉にたずさわる人の養成と働きやすい条件をつくる努力は今年からでもぜひ本気でやってほしいものだ。

足立巻一 〈姉妹誌オール関西「夕暮れに苺を植えて」の執筆者〉

# やちまた

上・下巻同時発売中／各巻450ページ・写真16ページ 各巻1600円

没後八年日亡父本居宣長に捧げた不朽の名著「詞の八衢」——本居学の総師として国語学と和歌に生きた春庭の生涯——構想40年・特異な語学者を人生の機微に触れる詩人の鋭い人間観察眼で彫りあげた、新しいジャンルを拓く評伝文学の労作。同人誌「天秤」連載のものを全編改稿し、新出の資料により増補。

東京都千代田区  
神田小川町8ノ6

河出書房新社

電話(03)292/3711(代)  
振替東京108002

●本誌連載の小説〈曲線ハイウェイ〉が好評発売!

LOVE SEX

東京文芸社 ¥730

# 愛と性

武田 繁太郎 著

「愛と性」は話題の「寝室」で夫婦の性生活における女の魔性を描いた著者の最新長篇。現代の若者の行動に仮託して、愛のふかさが味う性の喜び、愛と性の自然なありかたを、曲線ハイウェイで結ぶ問題作。

□好評既刊／武田繁太郎著「寝室」¥790「芦屋夫人」¥550



# ★神戸の催し物2月ご案内

## △音楽

★森昌子ショー

1日(土) ①2時 ②5時 神戸  
国際会館 A・二〇〇〇円 B・  
一〇〇〇円

★神戸市少年団音楽隊定期演奏会

1日(土) 1時半 神戸文化大ホ  
ール 無料



神戸市少年団音楽隊

9日(日) ①1時 ②4時神戸国  
際会館 S・二〇〇〇円 A・一五  
〇〇円 B・一〇〇〇円  
★全日本合唱祭(お母さんコーラス  
がやってきた)  
9日(日) 1時 神戸文化大ホ  
ール 無料

★吹奏楽団「ラス・ボルテ・ニョ

第一回定期演奏会  
11日(火) 5時半 神戸文化大ホ  
ール 二〇〇円

★スリー・ディグリーズ

14日(金) 6時半 神戸国際会館  
ラブリット・四五〇〇円 S・二  
八〇〇円 A・二五〇〇円 B・  
二〇〇円 C・一五〇〇円

★ホセ・ミゲルと長嶺やす子

19日(水) 6時半 神戸国際会館  
S・二五〇〇円 A・二〇〇〇円  
B・一五〇〇円

★バロック音楽の夕べ

21日(金) 7時 芦屋ルナホール  
一般・五〇〇円 中高生・三〇〇  
円

★大阪フィルハーモニー交響楽団

22日(土) 6時半 神戸文化大ホ  
ール A・一五〇〇円 B・一三  
〇〇円 C・一〇〇〇円

★第34回市民コンサート 経営業の  
夕べ

22日(土) 6時 神戸文化大ホ  
ール 無料

★四人囃子VSタウンタングウィ  
ギバンド

22日(土) 6時 芦屋ルナホー  
ル 無料

★長嶺 岡安会

23日(日) 2時 県民小劇場 無  
料 岡安喜久吉・喜歌子他

★思い出のヒットパレード

24日(月) 6時半 神戸文化大ホ  
ール 神戸民音・一四〇〇円

★高橋竹山

24日(月) 6時45分 神戸文化大  
ホール 神戸音楽友の会・会員・  
一三〇〇円 一般・一五〇〇円



高橋竹山

★芹洋子・ファインメイ

27日(木) 6時45分 神戸文化小  
ホール 神戸音楽友の会・会員・  
一三〇〇円 一般・一五〇〇円

★神戸山手演奏協会ジョイントリサ  
イタル

27日(木) 6時 県民小劇場  
★パールコンサート 倉田澄子リサ  
イタル

28日(金) 6時半 県民小劇場  
8〇〇円

★東京演劇アンサンブル公演

「オートーと呼ばれる日本人」  
1日(土) 6時15分 2日(日)  
1時半 神戸文化大ホール 神戸  
労演・一三〇〇円

★劇団民芸公演「赤ひげ」

22日(土) 6時半 芦屋ルナホ  
ール

★神戸っ子読者5名様

パールコンサート パリ国立音楽院卒業の  
女流チェロ奏者・倉田澄子リサイタル(2  
月28日/県民小劇場)にご招待!

(兵庫県音楽団協議会提供)

ご希望の方は、葉書に住所・氏名・年令・  
職業・TELをお書きの上、〒650生〇  
区東町一三の二、大神ビル7階 月刊神  
戸っ子編集室まで、先着順

★劇団四季公演

「シラノ・ド・ベルジュラック」  
12日(水) 6時 神戸国際会館  
S・三〇〇〇円 A・二五〇〇円  
B・二〇〇〇円 C・一五〇〇円

出演/平幹二朗 佐々間良子ほか  
★ミュージカル「ファミリー劇場」

「アラジンと魔法のランプ」  
14日(金) ①10時 ②2時半 神  
戸文化大ホール 前売A・一〇〇  
〇円 B・八〇〇円 C・六〇〇  
円

15日(土) ①10時半 ②2時  
16日(日) ①10時 ②1時 ③3  
時半 神戸国際会館

前売A・二〇〇〇円 B・一〇〇  
〇円 C・八〇〇円 当日A・一  
四〇〇円 B・二〇〇〇円 C・  
一〇〇〇円

★俳優座公演「どん底」

18日(火) ①21日(金) 6時15分  
22日(土) ①1時半 ②6時15分  
23日(日) 1時半 神戸文化大ホ  
ール 神戸労演・一三〇〇円

△その他

★映画「未来はわたらのもの」

3日(月) 1時半 神戸文化小ホ  
ール 六〇〇円



パキスタン国立民族舞踊団

★パキスタン国立民族舞踊団

11日(火) 6時 神戸文化大ホ  
ル 民音 会員・一五〇〇円 一  
般・二〇〇〇円

# をめぐる 神戸っ子達

佐川 俊吉さん

〈創建設計社長〉

歌手の佐川満男さんのお兄さん。  
「歌は得意じゃないですが……」画  
家の中西勝郎を設計した人。「こ  
の風景気はどうですか」「悪いで  
すなア」「うさ晴しに飲んで歌い  
ますか」



長島

隆さん

〈神戸市市民局長〉

神戸まつりにはいつもパレードにご一緒する。  
踊る市民局長さん。なにせ体力抜群である。登  
山のベテラン、高取山じゃないですよ、エベレ  
ストですよ。大きい人だ。



生駒紀美子さん

〈生駒時計店夫人〉

山田五十鈴さんに似てしまった。悪いことはありませ  
ん、美人ということですよ。ご主人が見なさんとご一緒  
はよう描き過ぎや」というかもしれない。



馬島

秀平さん

〈大丸神戸店次長〉

私の展覧会のために、骨折ってくれている  
人。「肥ってばかり、少々のことではやせ  
はらへんでしょ」勝手なことを言ってい  
る。





鴨居 玲さん 〈洋画家・二紀会〉

まだ偉くならない頃から、私をほめてくれていた人。こういう人にほめられたら“免状”をもらったような気になる。デッサンという店でデッサンした。「なんか恥しいなア」とテれる。いや、こっちの方が恥しい。



高 英洋さん 〈鹿茸本舗樹社長〉

張り切った皮ふ、つやのある丸い顔。「高さん鹿じょう酒の瓶に似てきましたよ」「ワッハッハッ」鹿茸酒で乾杯、安心して乾杯、乾杯。二日酔いしないから。ホントよ。



国中富樹子さん 〈デザインナー・神楽デザインセンター〉  
飲み仲間。通称「お国さん」。本名は今まで知らなかった。「よう言うわ」とボコンと肩をたたく。庶民的でカラカラしている。



田中 薫子さん 〈フアッションデザインナー〉

神戸っ子じゃない神戸っ子。神戸が大好きだという人。いつも太腕から足をはしてやってくる。それで合ってるんです。さすがです。神戸はいい街です。

# をめぐる 神戸っ子達

加藤きよ子さん

〈モダンバレリーナ〉踊りのために  
生まれて来たような娘。街を歩い  
ていると、突然ピョンと飛び出し  
てくる娘。いつも踊っているよう  
な可愛いきよちゃん。



小山乃里子さん

〈フリーアナウンサー〉

いたずらっぽさがこの人の魅力。「乃里さんは美人や  
なアー」なんて言ったら、トンボめがねで下心を見られて  
しまいそう。



小笠原誠二さん

〈画家三紀会〉

画家の顔を平気で描いている自分に気が付く  
と、途中からタッチがあやしくなって、あと  
で見せ難くなる。「なるほどネー」と見てく  
れた。気を使ってくれた。



君本

昌久さん

〈詩人・市民同友会事務局長〉

この姿勢を崩さずジッとしていってくれた。きっと「神戸  
空襲を記録する会」の出版のことも考えていたのだろ  
う。彼の目は遠くを見ているようだ。







内藤 国雄さん <将棋九段>

『もうさん似とれへんやないか』とバシッとくる。残念ながら将棋で言えば、読みを見られたいうのかなア。「最も最初の縁が“筋”に入っていないとガタガタになるやろ」さすが九段、相手が悪い。



連載  
もうさん



服部 正さん

<大阪社会事業短大教授>

『娘が先生の社大にお世話になっていたんですよ』『ア……そうですか』神戸というところはどこからかつながりが出てくる。楽しい街だ。『いつもどこかでお会いしてますなあ』

中西

省伍さん

<デザイナー・サロンド・ド・ナカニシ>

服飾はいいですなア、いつも美人のボディがあるから。少し手伝わせてほしいなア。



高月

昭子さん

<建築家・設計工房DONA>

「ヘッ建築技師には見えないねえ」この頃の若い人の職業はわからない。まだ上級試験の勉強中だという。「それより建築家と結婚したら……」「してますよ」「ア……そう」「離婚ということもあるでしょ」「イッ」







動物園飼育日記

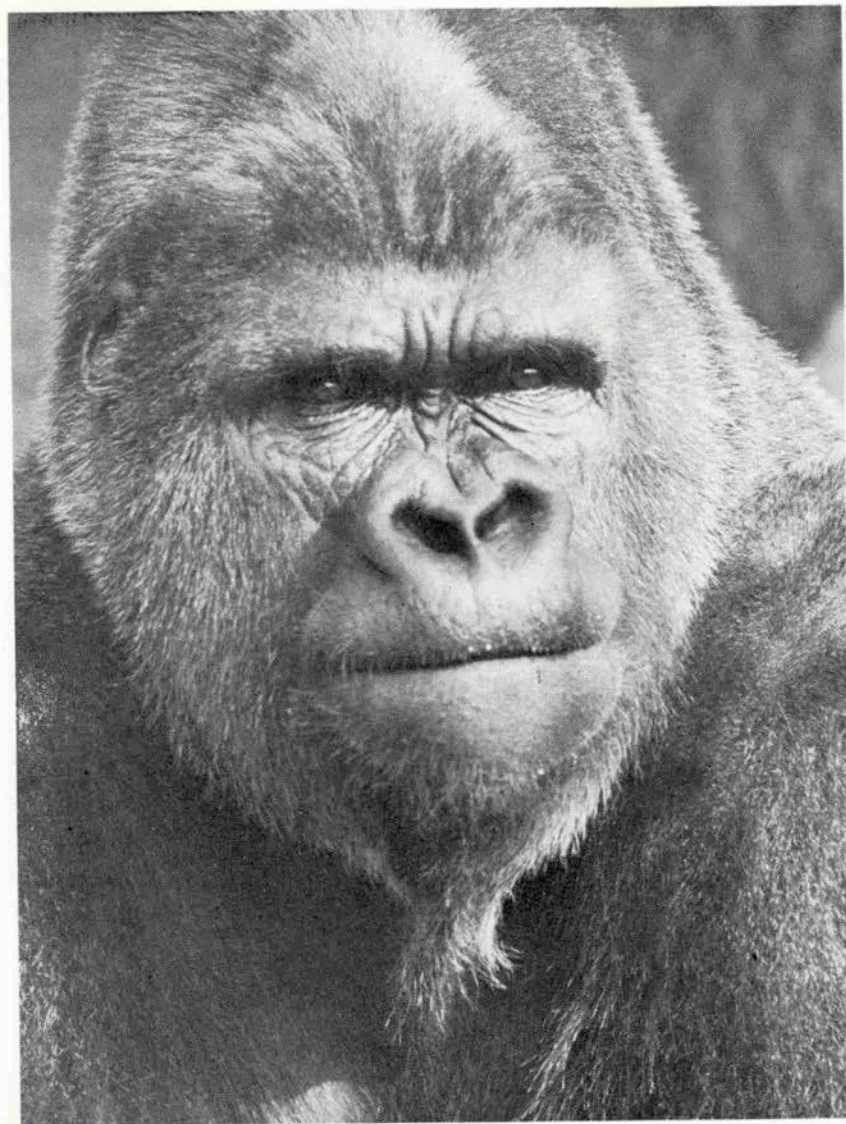
105

亀井一成



ないしょ話シリーズ〔26〕

“おれへん”ゴリラ



快晴の朝、その日もゴリラ舎の運動場に好物のパナナ、リンゴ、ミカン、大根葉を置いてやり、扉を開けてやると巨体のザークは元氣よく走り出た。

その暫くあと入園者のざわめきが耳に入りはじめたときの声である。

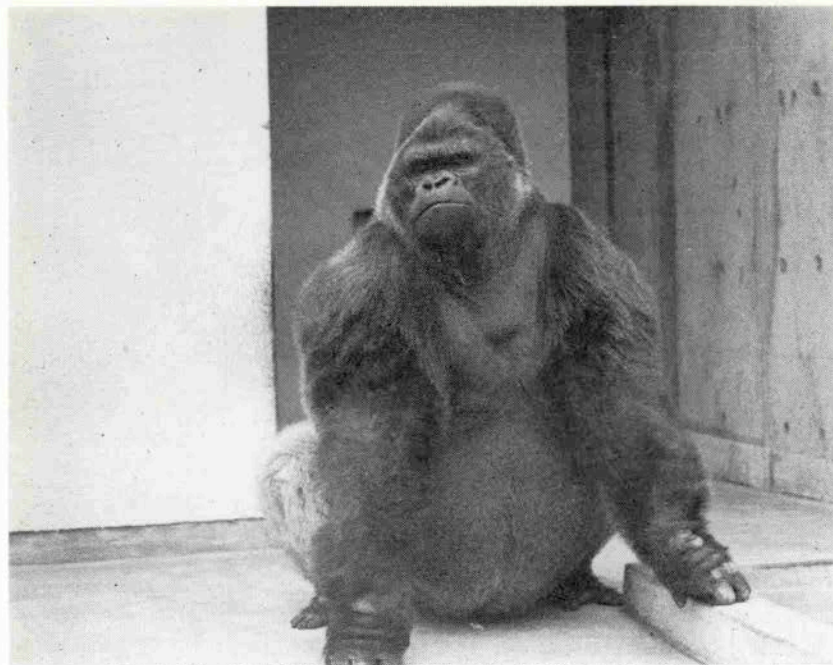
「ゴリラ何処へ行ったんやろ、おれへん！」

「今日はゴリラ君お休みらしいね」

「すみませんがゴリラは何処にいますか」

本当なら大事件である。

まさか、ゴリラが、幼児の二の腕もありそうない鉄



日本一大大きく、ハンサムな顔つきといわれるザーク君、体重200kg。黒い扉をバックに。

格子をへし折って逃げ出すはずがない。それでも氣になる担当者は運動場をひよいとのぞきみたが、別に異常はみうけられない。何時もながら扉を背にしたオスのゴリラザークは座りこんでいた。だが、やはり「ゴリラおれへん！」、不満の声がずっと続いた。

いやこれはゴリラばかりではない。クロヒョウ、ニホングマ、ヒョウ、シマウマ、列記すれば数多い。とにかくお客さまはできるだけ、アップでしかも次から次へ、動物のはでな動きをのぞいて見たい。それでいて、足も止めずに『見流し見学』がそのほとんど。ちゃんと顔見せしているはずの動物たちをも、つい見逃してしまおう方が多いのである。

とはいうもののお客さまばかりが、うかつではない。いくら馴れた動物だろうと、まる裸、無防備に姿をさらけ出すようなことはしないのだ。そつと体をやすめるそのひとときにも、差しこむ陽ざしの明暗を計算している。つまりお客の眼から逃がれる位置を、まことにうまく心得、シマウマ、キリンは木かげを背にたずみ、クマやクロヒョウはうす暗い寝室への通路穴を背に、そしてゴリラのザークは僅かな黒塗りの出入扉にビタリ身をすり寄せひそんでいたのである。動けば白壁にくっきり、ごついからだが浮きでると考えていたのだらう。

ところが、その数週間のある日、なんだかザークに落着きがない。これまでとちがって運動場の隅隅つまり、お客側から少しでも離れた場所へ行ったりきたり、四つ足の体をひよいと立てひざ、座ったと思ってもまた動く全く腰がきまらないのである。何故だろうか。見に行つた私にもオロオロ、何時ものようにこちらが背を向けたとたん、扉前からぱりっとなん、このゴリラ独特の背面攻撃も





カラカワレノハ、イヤダ。見物客のイタズラにす早く天井へ。

広い範囲が見えるので後からの敵をいちはやく知る利点をもっている。しかしながら、われわれが片眼で物を見るようなもので立体視できない場合が多い。それがため、サイやゾウは、近視だと言われている。とすれば、ゴリラがびたり黒い扉を背に、じっとわれわれを前方視していたことも敵には背を見せないという防衛行為だったのかも知れない。いやそれがまた、ゴリラはわれわれ人間同様、色の識別ができることを明らかに意味していたのだ。

眼の水晶体はカメラのレンズ。瞳孔は絞り、そして網膜はフィルムに当たる。その網膜の最外層には色を識別する円錐細胞と、色よりも明暗を感じる桿体細胞との視神経細胞があつて、動物のほとんどがこの両細胞をもっている。が、日中は円錐体が、夜は桿体が働くので夜行性動物には桿体が多く、昼行性動物には円錐体が多い傾向がある。ちなみに桿体の多い動物、つまり夜行性とよばれるものはネズミ、モルモット、イヌ、ネコ、フクロウ、コウモリ、モグラなどがあげられるが、そのほとんどが赤を見分けることができない。灰色か黒にしか見えないといわれている。

また、色の識別をする円錐体の多いのは鳥類で、中でも特に視力がすぐれているのは猛禽類だ。例えばトビやハヤブサは色彩感覚もすぐれ、一〇〇〇メートルもの高さからでも地上の小さなネズミを見つけ、急降下しては捕食することが知られている。そして猿類、特にゴリラやチンパンジー、オランウータンともなれば人間同様に色を見分け、その生活行動には常に色覚のぞかれること、周知の事実である。

さて、はからず私の目撃したこのザークのオロオロぶり。実は「おれへんじじゃないか」という客にお気を使った担当者が、ザークの最も落着ける潜行場所であったせつかくの黒い扉を、なんと丹念に白ペイントで塗りつぶしてしまった翌日のことであった。

かけてこないのである。ばかりか、デカイ体をもてあましていた。

さて、話がここまでくると、動物の眼の形体を少々知っていたかなくてはならなくなった。

まず肉食獣やわれわれ人間も含む霊長類のように、左右の眼が正面で横に並んでいるものと、キリン、サイ、ゾウなど草食動物のように鼻すじを狭んで顔の両側に眼がついているものとに分けて考えたい。つまり前者は前方一八〇度の範囲は見えても、そのままでは後方を見ることはできない。しかし、前は左右両眼で見えるため立体視ができ、正確な距離を知ることができる。

一方、後者は眼が体の両側にあるため前も後ともいう



「関寺小町」の花柳芳一さん

# 舞台随筆

## 「芳一の会」の 東上に想う

佐野 連箕

〈神戸新聞庶務支社長〉

花柳芳一師が会主となつて東京国立小劇場で初めての舞踊会をもつた。49年12月12日の「芳一の会」がそれである。あの円満温知な芳一師を東京へひっぱりだしたのには五世芳次郎師の熱意が大いにあつたことらしい。「亡父芳睦の筆頭名取としてその芸風を適格に継承した名人を紹介したかった」といつておられたが、事実その通り芳一師の魅力は素晴美にあるといつてよい。「活達しや脱、線細量感、鋭敏円満が配分よく存在した芸風」と作者駒井義之氏は評している。「助六」「関寺小町」「文屋」の三古典素踊りで魅了したのは当然ながら誠に当をえた選

扱であつた。

まず芳一師の「助六」で幕があく。花の大江戸のイキと風情、きつぱりとした胸のすくい気分見事な力量。休憩——続いて「花競四季寿」。まず楽堂師の「万歳」かしこまつた舞台の出のめでたいふんいきがとくにいい。続いて芳恵一子師の「海女」銀波に千鳥の赤がはえた衣装ですがすがしい。そして芳一師の「関寺小町」渋く香気ある風趣、力感、関寺へ帰る幕切れのあのわびしさの極み、これを舞踊のだいご味というのだろう。続いて家元寿輔師の「鶯娘」。花道



「竜虎」の花柳芳恵一子・芳次郎さん

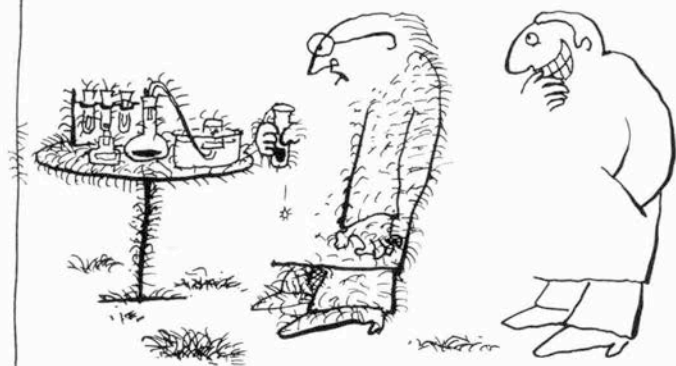
のセリ美しさ、感受性の強いいかにも家元の踊りといった風格、それに古典のイキ。休憩。そして芳次郎師、芳恵一子師の「龍虎」この体力的に努力のいる舞踊をこれまた文楽の太サオにのつて踏む二人の「間」の確かさ。芳一師のそれと違う世代の若々しさとみずみずしさ、何より大切な覇氣と躍動感、いいかえると芳一師の後継者という芳恵一子師の確固たる実力の証明といえた。最後は芳一師の「文屋」。芳五三郎、与兩師を官女につかつての軽妙さ、情相をのんびり、ふつくらまろやかにうきうきと品よく「因果はめぐる」あたりの金扇のひらめきの見事さ、洗練された古典とはこんなにも新鮮なものなのか、全体的にすみずみまで神経がゆきとどき舞踊の喜びと感銘を与えたそして私は芳一師の舞台に本物の舞踊家の純真さと執念をみた。三時間のこの充実した興奮、劇場を出てお堀の黒々とした松に向つて「よかった、よかった、これが本物の踊りなんだ」とつぶやいたが、そうして三宅坂を歩いたのは私一人ではなかっただろう。芳一師は明治40年生まれたから68才になる。かぜ一つ知らない健康体である。ますますの健斗を祈るのもまた私一人ではないだろう。



プロフェッサーPの研究室 (3) 匂いの研究 岡田 淳



——教授、我々はこの研究に、少し深入りしすぎたのではないですか。



—Taka—

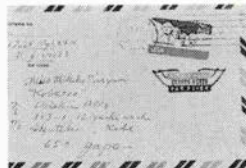
——残る問題は、いかに頭に生やすか、ですね。

Air Mail from New York 〈18〉

## テレビでぐろ寝

竹田 洋太郎 〈在ニューヨーク〉

え・たかはし もう



筆者

数年前の日本の統計によれば、日本人がレジャーを過ごす方法として最も多いのは、テレビを見ながら、ごろ寝をする、というのが一番だとありました。これについて識者は「日本の貧しさ」を指摘し、レジャーを過ごす方法が乏しいのをなげいていました。

それなら米国はどうか。たしかに日本よりも変化がありそうです。夏なら海岸、プール、湖ヘドライブするのもいいし、冬なら、ニューヨークの都心から車で一時間余りでスキー場もあります。近ごろは日本同様、映画の再興もめざましく「大地震」や「エヤポート一九七五」「タワリング・インファード」と「大災厄映画」は観衆を集めています。

しかし、米国人と話していると、やっぱり彼らのレジャーの最高は、テレビでごろ寝ではないかと思えます。たしかに、よくテレビを見ているんですね。

ごろ寝といっても聲が敷いてあるわけではないから、リクライニング・チェア（これは主人の座）かソファにもたれて手許にビールのカンを置き、左手にパイプをもってテレビを見るわけですが、それならなにを見るか。これを問題にしましょう。

日曜日や、ことに新年の休みなど、テレビで最高の視

聴率を誇るのには、いうまでもなくアメリカン・フットボール。これが春から夏のシーズンは野球に向かいますが数ではフットボールが最高です。お正月のローズ・ボウル、オレンジ・ボウルは、にぎやかなパレードとともに年中行事となっています。

普通の夜のゴールデンアワーは、日本と同様、連続テレビドラマ。最近の人氣は「チョコ・アンド・ザ・マン」ロサンゼルスのスベイン語系米人の青年と、彼の働くガレージのオヤジの物語ですが、こうした人種の差がいまやコメディのテーマになっていることは、五年前なら考えられないことでした。

こどもたちは「エアージェンシー」を見て、消防署の救急担当員にあこがれ、ちよつと大きくなると「六百万ドルの男」（空想科学スバイ探偵ものと欲ばつたもの）に血をわかします。

ついでながら、日本でもやっている「セサミ・ストリート」のほかに、このような教育番組が土、日曜の朝など、たくさんあります。これらの目的は、日本ではどう受け取られているか知らないが、主として、英語を話していない家庭の学齢前、または低学年の子供たちに英語のイメージを与えるためのものです。なかには「ピリヤ

・アレグレ」という、スペイン語と英語を並行して子供の教育をやる番組もあります。前にも一度いったように米国に住む人の中には英語をしゃべるのに苦労している人が実に多いのです。われわれの家庭も含めて。

私のよく見るのは、週日夜十一時半からの「ジョニー・カーソン・ショウ」つまり深夜番組ですが、ちょっとした見せ物をやることがあるが、大てい是有名タレントを引っぱりだして、ジョニーの司会でシャベルわけですが、こういったトーク・ショウは日本にはない。

というのは、日本で、都はるみのようなタレントを呼んで、内閣の新閣僚の品定めを二十分もしゃべらせることなど考えられないでしょうが、米国のポピュラー

・タレントは政治であろうが、経済であろうが、なんでも実によくしゃべる。しかもその間にジョークがなければタレントとはいえないのです。悪漢役をやらせれば最高のジャック・バランズなど、これによく出て、国際問題を語ったり、その間にハリウッドのゴシップを語ったりするわけです。

探偵ものでは「コロンボ」も面白いが、スリルのあるのはニューヨークを舞台にした「コージャック」、主演テリー・サバラスで、七四年は一番人気だったといっているでしょう。ともかく私たちの歩いているニューヨークの街での犯罪ですから、迫真力がある。

夕方の早い時間や昼間は、これは日本で見た続きものの再映、再々映。ちがうのは日本語でなく英語でしゃべるだけ。

夕方のニュースは一時間から二時間、深夜は三十分と日本よりずっと長い。この点日本の民間テレビは「報道機関」といえるかどうか。

日本でやれば当たると思うのはCBSの「キヤロール・バーネット・ショウ」（このイニシアルもCBSとなる）。

永六さんが沖繩の米軍放送で見て絶賛していましたが、問題は、このコメディが、他局の有名番組や有名商品のコマーションをパロディーで徹底的にひやかすことです。

このユーモアは日本人のユーモアとは質がちがうし、ちょっと受け付けられないかも知れません。

昨年からニューヨークでも日本人向けテレビ番組が週一度、土曜の午後放映されています。スペイン語番組主体のUHF 47チャンネルにつけたものですが、はじめは「あゝ忠臣蔵」ついで「必殺仕掛人」、そして今は「木枯し紋次郎」なんだか妙な感じです。



ソファにも寝 パイプならぬ爪楊枝





淀川立見席

37

# 生きている デイトリツヒ

淀川 長治 〈映画評論家〉



最後のショーが終わったのが十二月二十五日のクリスマス  
マスの夜の九時四〇分であった。

東京品川のホテル・パシフィックのディナー・タイム  
が終わったあとの八時半から九時半まで。

大阪、東京、札幌の大ホールで各一回出演したのち大  
阪のロイヤルと東京の帝国ホテル各一回、そして最後の  
二十四日と二十五日を東京のホテル・パシフィックで歌  
ったのであった。

カメラを嫌う七十三歳のデイトリツヒ。ある人が  
「私は貴方の大ファンでした。ところで貴方は何本の映  
画に出ましたか」

この質問に彼女は答えなかったようだ。そしてその人  
が握手を求めたとき手を出さなかったのだそうだ。これ

は来日披露宴の席上のことである。

帝国ホテルに泊っていて誰ひとり部屋に入れない。用  
件はすべてドアの下から手紙で。食事はすべて部屋の中  
で。これは実話である。楽屋からステイジへはエレベ  
ーターで。そして舞台のそでから舞台に一段でも階段があ  
ると彼女は嫌やがって、そのそでから舞台へ大きな板を  
渡しその上にカーペットを敷くことを命令した。

これはすべて話に尾ひれのついた伝説のことなのだが  
……私にはこの目ではつきりとわかったのであった。大  
阪と東京の入りがひどく悪くて彼女をさびしがらせたら  
しいが札幌では満席となり舞台から多くの人に握手をし  
その多くの人の方へ舞台から下りて行ってその人たちに  
かこまれて「カメラ、カメラ」と呼んだという。

東京でも気軽に舞台から握手した。握手しただけでな  
く、熱狂的なファンが自分の住所をデイトリツヒの手  
に押しつけてサイン、サインと叫んだところ、それから  
二日目にちゃんと彼女の写真にサインをしたのが送られ  
てきた。そうビックリして私に打ち明けた若いファンが  
いた。デイトリツヒはびっくりするほどやさしかった  
のである。

二十五日の最終の夜のショーは涙があふれるほどデ  
イトリツヒはすべての十八番の歌を聞かせてくれた。私  
は一番前の中央のテーブルだったので私の目の前でデ  
イトリツヒは歌っていたのだが、手には七十三歳のしわ



舞台を下りた彼女は、まるで可愛い、愛嬌ある女性だった。

が見え、首すじにも重なるしわが見えたのに、歌い出すやそれらの老いは見事消え去った。

両手の使い方、顔の向きをサッと変えるその美しさ。一時間たてつづけに歌って次第にその声が一層つやを深めた。最後は「フォール・イン・ラヴァゲン」でしめくくったが、「ローラ」をはじめ「ジョニー」そして「リリー・マルレーン」「花はどこへ行った」それに懐かしい「ブルー・ヘブン」一時間休むひまなく歌い、こちらは涙があふれメガネが曇って老女ディートリッヒが「プロンド・ヴィナス」のころのディートリッヒにメガネの向うにキラキラと輝いて見えるのであった。

これほど手のかからない人はいない。これが世話係の人の打ちあけばなしであった。彼女はホテルの部屋の中で自分で自分の身につけるものにアイロンをかけるのだそう。一度その留守中の部屋の中の冷蔵庫を開いて見るとゆで卵が二個とクロワッサンのパンの半分がそれぞれセロファンに小さく包んで入っていたという。また机の上には、そつとひとりでもらった花の一つを押し花にしていたそう。とにかく手紙ばかり書いている人ですよとも打ち明けた。

最後のショーがすんで半時間のあと、彼女は衣服を着替えて私たちだけの仲間の前に姿を見せた。きれいな赤い上着に真黒の男のズボン。その足がやっぱり見事なものだった。私が紹介されたとき、彼女は私を両手で抱きしめ写真をとろうとカメラを目でさがし回った。そのうちに立ちかわり入れかわりいろんな人がやって来て彼女をとりまいて、彼女はきょときょとと愛嬌を振りまいた。中央の奥に大きな三人がけのソファを用意したのに、彼女はいろんな人にとりまかれ、ついに一度も腰をけけなかった。

目の前、じかに私はディートリッヒを見た。そばには人もよせつけぬという伝説の大スターのディートリッヒは私の目前でコッパミジンに散ったかに思えた。そこにいるディートリッヒはまるで可愛いオバサマだった。私と目が逢うたびに嬉しげにまたも握手した。カメラと呼んで私を抱えてカメラの前に立った。舞台では手の動き、その線ひとつにも気をくばっていた。ニューヨークで足を痛めたため舞台からひきさがるとき老女のいたいたしさを見せた。それが歌い出すシャッキリと若さがよみがえるのであった。やわらかい電光の下で彼女の首を三重にやわらかく

しめたダイヤモンドの首飾りと銀いぶしのイブニングでディートリッヒが蝶に見えた。銀の蝶に見えた。私はその姿を涙でかすんだ目で見たせいかさらにキラキラ光る蝶に見えた。それがベストをつくし力かぎりでの最後のショーに打ちこんでいるその精神のその姿がさらに彼女を美しくした

# 女体百景

《31》

H・ジュニア

え・浅野俊一

プロ

ネ

フェツシヨ錬ル<sup>2</sup>

パリは芸術の都。

娼婦も、セックスの芸術家。いや、芸術作品そのもの。みずから実験台上に、芸を錬り、術を錬ることに余念のないプロフェツシヨ錬ル！

はてさて、お立合い。テッドラビドス製のジーンズを脱ぐと、女は生まれたままのあで姿！。ブラウンの恥毛も、今流行のハート型。（ここまでは先月号）

今月は、そんな彼女が、酔眼朦朧、満腹のH・ジュニア氏をサカナに、如何なるプロフェツシヨ錬ルぶりを発揮するか、後は読んでのお楽しみ。

彼女は「お先に！」とばかり、鞍馬天狗も顔負けに、全裸で宙を飛んでダブルベッドにもぐり込み、「さあ、いらいしい。後は、あなたのなすがままよ」と言わんばかりにもう目さえ閉じてH・ジュニア氏を待っている。

「オッパイは、仰向けに寝ているのに、何と、オワンを伏せたように、ポコッと付着していることか。普通は体から隆起しているとか、もり上がっているのだが、彼女のは、別の部品が取付けられているといった感じだ。底辺の円周が歴然としているではないか？」

H・ジュニア氏は遅れてならじと、ベッドへ飛び込み

左手を彼女の首に巻きつけ、右手でまず待望のオッパイを「ガバツ」とわしづかみにし、右足をサツと、彼女の両ものの中へ割り込ませ、ひざで局部を圧した。そして右手で、骨細の肩を抱いて引き寄せた。

「こんな素晴らしい肩を抱いたことがない。空気が乾燥しているせいか、サラツとして最高の感触だ。腕といっておッパイといい、表皮は縮まっているのだが、握り締めるとかラダの芯までサクツと指先が達するほど喰い込む柔かさだ。幅狭に小さく可愛い頭に羽根のような金髪。くびれた短く細いウエスト。ボールのような可愛いお尻！右手が一本しかないのが残念だ。頭、肩、お尻、オッパイと、順番にさわらなければならぬ。一度にさわれたらどんなに素晴らしいだろう。」

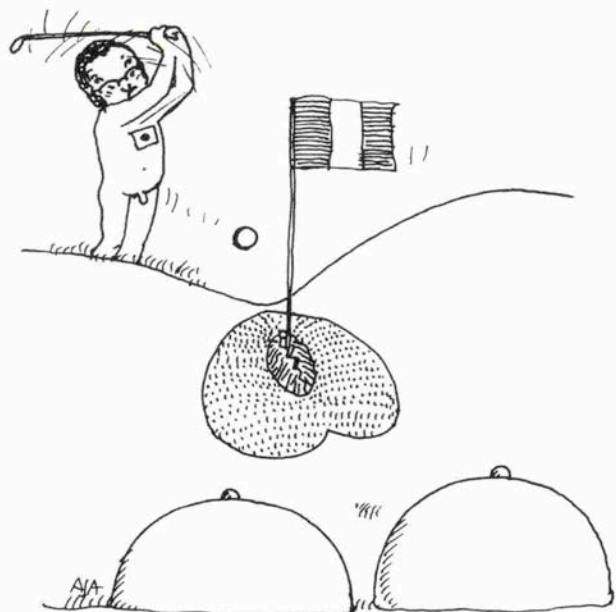
H・ジュニア氏は、指先の攻撃目標を、彼女の局部に段々にしぼっていった。そして、遂にたまりかねて、首に回していた左手を彼女の背中の下へ回し、右手の指先で彼女の局部にさぐりを入れながら、自分の顔を彼女の左右の乳房に埋める恰好で、小さな種なしブドウのように可愛い乳首を左右交互に思い切り吸い始めた。そして、時には、彼女の花弁のような唇への接吻をもさしはさんだのである。

彼女はやにわに身を起したかと思うと、牛若丸のごとき早業に身を翻して、頭と足の位置を逆にし、H・ジュニア氏のジュニアを口にくわえたのである。

「パリの娼婦は、チン検の意味もあつて尺八するとは聞いていたが、こうも意表を突かれようとは！」

ただもう、H・ジュニア氏は「オーオー」と悶え、身をくねらせるばかりの喜びようである。尺八の技術は、唇の薄いパリのプロフェツシヨ錬ルに止めをさすとH・ジュニア氏は、この期におよんではじめて悟ったのである。パリジャンヌに、たるんだ、はれぼったい唇はほとんどいない。アルヌールやバルドーはむしろ異端である。ミツシエル・モルガンの唇が正統なのだ。その薄く縮った唇は、尺八に適した天与の民族的素質を遺憾なくあ





に寝かせて、その股間に頭を突っ込み、ヘパリジャンヌの貝の具合や如何に?」と彼女の貝に初対面した。

モリモリ、モコモコ、チマチマ、マンコ。彼女の大陰唇は、パリの石畳のごとく黒灰色にコリコリ盛り上がり、ホールと核弾頭をパツチリ堅固に囲んで、ホールインワンを防御している。ハート型に刈り込まれた周囲の芝生は、美しいスロープを見せている。ちり一つない。雑草一本生えていない。良く手入れされた最高のグリーンだ。

すでに、彼女は素早くH・ジュニア氏のポールを尺八している。どっちへ転んでも尺八だ。彼も見とれるばかりが能ではないと、核弾頭めがけてそつと唇をそえ味見をする。

「無味無臭。清潔そのものだ。これぞプロフェッショナルの身だしなみ、エチケットというものだ。」

相当激しく彼女のホール周辺にちくづけの雨をふらせてから正常位にもどり再び女らしい肩を抱いた。彼女は自分の局部につばを手早くつけ親切に誘導するのだった。パクリパクリ。ポールは確実にホールにキャッチされた。

彼女は、目をつぶり悶え、小さな頭に金髪が羽根のように揺れる。「アア、アア、アア、アア」と、またもや彼女はあえぎながら、ピストン運動を精一杯お始めるのだ。凄いきずみとスピードである。

「何というけなげなサービス精神。何という見上げたプロ意識。金の玉に手を添えて洗ったというだけで三千元アップを要求するトルコ嬢とは段違いだ。」

遂に、彼女は、コンディション最悪のH・ジュニア氏に、外野観覧席のご真中に、ストレイトにライナーで、深々とどくホームランを打たせてくれたのである。チップやファールを打たせて自らの体力の消耗を防ぐ娼婦が多いというのに……

(以後次号につづく)

らわし、その技術を裏付けしているといえよう。それにフランス語を美しくしゃべることも、尺八に適した唇を練りきたえるのではなからうか? 尺八はただ漠然としゃぶったり、吸ったり、舌でなめ回してもだめである。ボールの根方をかみそりのような唇でくわえ、ピチッと締めつけ固定しておいてこそ、効果満点なのだ。

ジュニアが勃起するのを見計い、彼女はさつと彼に打ちまたがり、女性自身に素早くつばをつけ、パクリパクリと二段がまえに彼のポールをくわえ込んだ。

「アツ、アツ、アツ」と、悶えるH・ジュニア氏を尻目に、彼女は彼の腰に手をあてがいて、機関銃のごとく、俊烈にピストン運動を「タ、タ、タ、タ」とおつ始めた。

「いささか、サーヴィス過剰気味だ。これで昇天させられては余りにも呆気ない。もう少し楽しませていただく」とばかり、彼はガバツと起き上がり、彼女をまとも



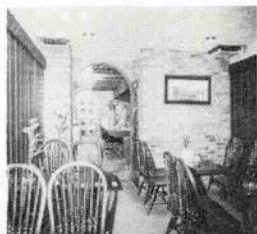
# ぴっと・いん



## ★心の通い合う店

### サボテンのある店

中山手の神戸女子短大の斜め向かいにティール&スナック。サボテンがある。店の若いマスターが大きなサボテン好きで、カウンターの上面にも大きなサボテンがおいである。



落ち着いた店内

カウンター席以外に奥にはテーブル席もあって、静かな雰囲気のため談笑するにもって来い。

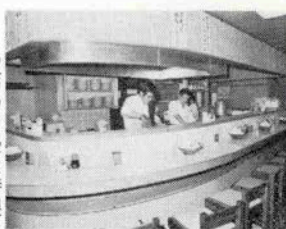
「サボテン」には老若男女、外人も混じって様々な人が来る。それも、お客さま一人ひとりを大切にしているからだろう。話を聞いているとそれがよく分かる。店の人と来られる人との心の通い合う場——それが

## ★サボテン なのだ。

平日PAM9~AM11・30 日曜AM10~PM6 AM11~PM2はランチサービス ビラフまたはカレーまたはスパゲティと珈琲 三五〇円 珈琲付ハンバーグランチ 四〇〇円 神戸市生田区中山手通一丁目 電話〇七八(二四一)七〇六〇

## ★当店自慢 特製カレー焼きをどうぞ!

六甲で七年の伝統をもつ焼き鳥の店「鳥やす」がここはどの町店を開いた。場所は国鉄元町駅西口前浜側元町プラザ地下一階。



ただ今、準備中です

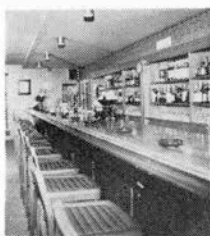
この店の自慢は特製カレー焼き。焼き鳥を特別ブレンドのカレー粉で味つけする。塩、胡椒、七味唐芥子などとはこの店でも使っているがカレー粉はこの店だけ。とりわけお酒を飲みながら食べる人には好評で、

かわ、ねぎみ、ひつぷ、手羽には特によく合うという。他に特製ニンニク入りボンズもある。もちろん鳥は炭火で焼きあげる。

焼き鳥各六〇円、手羽(三つ)二一〇円、もも三九〇円、鳥の酢の物二〇〇円、ささみの刺身二〇〇円、焼おにぎり(三つ)一六〇円、日本酒ビールウィスキー各種あり PM4・30~PM11 日曜日休み 電話〇七八(三三二)一三二六 六甲店は(八四二)〇一九四

## ★われら 小万 卒業生

スタンド&スナック。かつてのマスター嘉手納好宏さんがクラブ「小万」から独立したのは一年半前。カウンターの席だけのスペースのせいたくなくとり方、肩のこらない雰囲気と和やかさ、それと豊富な洋酒とがファンを増やしている。料理も本格的なものを出す 生田区中山手通一丁目九〇 英健ビル一階 電話三三二一三二六



“かてな”の店内

## スナック・ローランサン

「小万」の真知子、小夜は両人の店で、店の名はほんのりと匂うようなリリシズムにあこがれてつけたそう。女性のこまやかさが感じられる店だ。

生田区中山手通一丁目九一古林ビル 三階 電話三三二一三三八

## ●神戸うまいもん とドリンキング レストラン

### 男爵

生田区中山手通一丁目一八山手第一ビル一階 電話二四一〇七七八 この二月で六年目を迎える。「男爵」という店名はカッコいいからつけたそうだが、店内のインテリアは仲々凝っていてステキな雰囲気をかもし出している。



## 「男爵」の数多いメニュー

のなかでも特にお奨めしたいのは神戸肉の短剣焼(千六百元)。短剣に最上の神戸肉をグリとつき刺し目の前で火にあぶりながら楽しむ。エビもある(千五百円)。

店の雰囲気がいいため二人づれや女性のグループが多い。特に土曜日ともなると女性ばかりだそう。ビール三百円、水割(OLD)四百円、ボトル六千円PM5~AM12日曜日休み

# SALON KOBETIDAI



## ファッション時代のミニ・サロン

“神戸時代”。ちょっと変った名前ですが新しい神戸時代を目指した神戸っ子のサロンです。

神戸で最もファッションナブルな北野町、山本通界わいのファッションナブルなサロン——“神戸時代”。

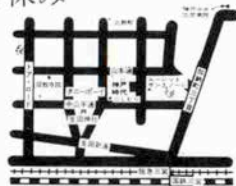
神戸っ子の憩いの広場であったり、談論風発のサロンにもなり、ミニパーティーがひらかれたり、ミニ発表会が行なわれたり素晴らしい情報交換の場になります。

お誘い合わせのうえお越してください。

5:00P.M.~1:00A.M. 日曜日休み

SALON **神戸時代**

神戸市生田区中山手通1丁目28  
モンシャトーコトブキビル 1F  
TEL 242-3567



# 世界の福祉施設

欧米の心身障害者を訪ねて

橋本 明著 〈カラー8ページ、本文320ページ、定価 1000円〉

送料 200円



●福祉時代の幕開けです。あなたも一冊ぜひどうぞ！

## 主な内容

- 神戸からシアトルへ
- クライシス・クリニック
- グッドウィル・インダストリーズ
- 里親発見活動
- フォースター・グランドペアレント
- ファーストアベニュー・サービスセンター
- ボランテニア・ビューロー
- 病院におけるボランテニア活動
- レニア・スクール
- アメリカのグループホーム
- 社会福祉とPR活動
- 砂漠の中の老人の町
- ボーイズ・タウン
- パーキンス盲学校
- スポック博士の子供博物館
- アピリテイズ
- ロンドンのバーナードホーム
- 奇蹟の町・ルルドを訪ねて
- コペンハーゲンの老人の町
- ベートル——西ドイツの障害者の町(ドイツ)
- ヘット・ドルプ——未来を拓くオランダのコロニー(オランダ)

各書店で好評発売中！

振替口座 神戸四五一九六

お申込みは月刊「神戸っ子」編集部まで。神戸市生田区東町113の1 大神ビル7F TEL(331)2246